



俺 0 0 0 0 8



book-fukunokami

ワサビ

「俺もワサビを食うんだ」

俺は誰もいない場所で叫んだ。

「おう、ワサビを食うのかい？」

誰もいない場所のはずだったがおじいさんがいた。

「わしゃワサビを育ててのう、おう、わしのワサビをあげるけん、ちっと待っててくれ」

おじいさんはそう言うとワサビを取り行った。

3時間たった、俺もよく待ってたもんだ。

もうワサビを食べる気は無くなってた。

おじいさんがワサビを持ってきた。

「おう、またせたのう、ほれ、わしが育てたワサビじゃ」

立派なワサビだった。

俺はもりもりとワサビを食べる気が復活した。

もう俺はワサビを自宅でするのが待ちきれなくなった。

ガブリ、ワサビを生のままかぶりついた。

おいしいかどうかは教えてあげない。

自宅に持ってけりワサビをすって食べた。

ツーンとした。